

平成 27 年 3 月 20 日

総務省 情報通信審議会 情報通信技術分科会
「第 3 回 技術戦略委員会」開催にあたってのコメント

シャープ株式会社
副社長執行役員 技術担当
水嶋 繁光

本日は、所用により前回会合に引き続きやむを得ず欠席させていただきますこと、お詫び申し上げます。第 3 回委員会の開催にあたり、下記、コメントさせていただきます。

【記】

◆（議論テーマ）産学官連携、国際連携、人材育成等の推進方策

- ・ 超高齢社会の進展や労働人口減少などの直面する社会課題と ICT 技術の進展を鑑みた場合、デジタルディバイドの進展が課題として顕在化するであろう。これの解消に向けては、Man/Machine コミュニケーションを革新する UI コア技術の開発が重要である。
- ・ これを実現していくためには、重要なインターフェースツールである視覚・音声・動きを統合し、人にやさしいコミュニケーションを実現することが必要となるが、ここでは IoT 社会におけるセンサーネットワークを通して集まるビッグデータとの連携や音声情報を意味のある情報として活用するための AI 技術を活用した音声コミュニケーションプラットフォームの開発・整備が必要となる。
- ・ こうした我が国の新たなビジネスモデル創出に寄与する産学官の連携体制を組成していく必要があるのではないか。基本的に国や NICT に期待されるのは基盤技術の研究開発であり、企業や大学からの大胆な人材の受け入れや人事交流により、将来の日本を担う人材育成にも繋げていくことも重要である。
- ・ また、ICT 技術の進展による最大のメリットは「距離（空間）と時間の問題を解決するスマートな社会の実現」と考える。グローバル市場での競争上の観点からも、国際標準化や国境の無い“情報”を前提としたサイバーセキュリティ等の国際連携が欠かせないことを認識しておくべきである。

以 上